

国際性を育む機会

前号で述べた「公正・公平な態度」、「伝統・文化の理解・尊重」、「論理的な思考・表現」を取り扱う機会は、日々の教育活動の中にあります。

「公正・公平な態度」は、主にいじめを生まない公正で公平な学年・学級・学校づくりを通して育まれます。

「伝統・文化の理解・尊重」は、郷土や日本の伝統・文化を調べたり体験したりする学習、諸外国の伝統・文化を調査したり他国の文化と比較したりしながら日本について考える学習等で育まれます。

「論理的な思考・表現」については、日常生活の論理が主に言葉によるものであるため、言葉を通して高め磨くことが有効です。具体的には、各教科における文章を書く学習や自分の意見を発表したり話し合ったりする機会を通して育みます。



伝承を受け継ぐ

福聚山 慈眼寺住職 大峯千日回峰行大行満大阿闍梨 塩沼 亮潤

下積みの時期は、お師匠さんの背中を見て、かたちから入っていきます。2年、3年と時間が経ち、ある程度経験を積んだとしても、試行錯誤はまだ続きます。アナログラジオでチューニングをして、一番周波数の合うところを感覚で合わせていくように、すべてが手探りです。やってもやってもだめ。でも、その中でピタッと合う瞬間がある。そういう感覚を何度も繰り返し、やがて経験値が上がってくると、一つの自分の軸ができてきます。これがいわゆる伝承を受け継いだということなのでしょう。これは学校でも家庭でも同じことが言えるのではないのでしょうか。

出典：「寄りそう心」 塩沼亮潤著（プレスアート）

※ 試行錯誤の末、「自分の軸」をつくってこそ伝承を受け継いだことになる。心に刻みたい言葉です。